

# 見逃しがちな洪水の被害と避難方法

近年、異常気象により短時間に多量の雨が降る「ゲリラ豪雨」や「線状降水帯」という現象の発生回数が各地で増えている。そこで、自分の住む地域でゲリラ豪雨等が発生し川が氾濫してしまった時の被害と安全の確保の仕方について考察した。

赤点が指す地点は、【黄瀬川浸水想定区域】

【警戒宣言時避難対象地区】に指定されている。  
**浸水が予想される危険な箇所！** 地理院地図から、周囲より標高がやや低いことが読み取れる。川のカーブでもあるため、増水し勢いのある水流により氾濫が起こるのだろうと考える。上記のように指定区域となっているため避難が必要。

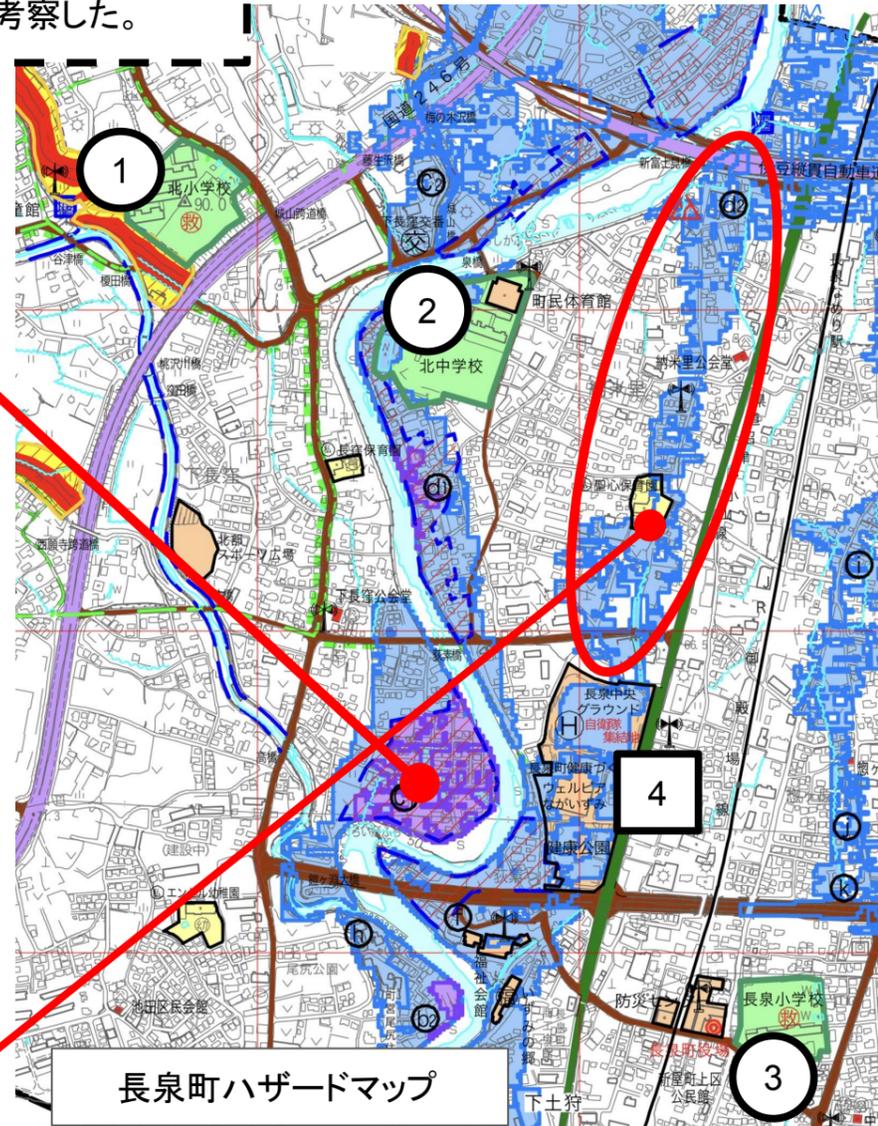
避難先は北小学校となる。  
 避難の時は、川から離れた道を使う。  
 避難のタイミングを見計らうため、正しい情報を入手できるようにしておく。  
 ただ、、、川の水の増水は急激に！  
 さらに、雨量に比例するわけではない！  
 雨が止んだからと安心してはならないのが川の氾濫である。

雨量と川の水位の関係 →

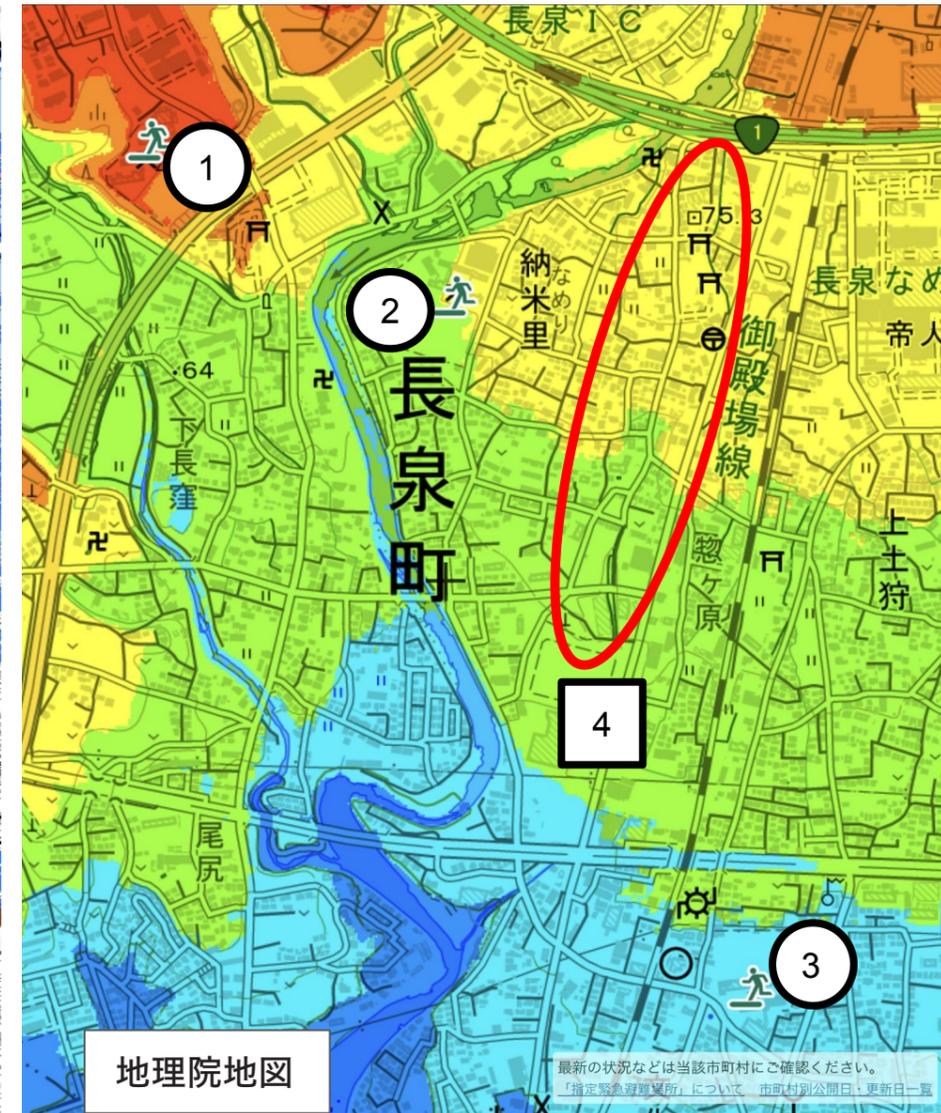
図1

省略  
 日本経済新聞社「河川氾濫 水位10時間で10m超 データでみる急上昇」  
 (<https://vdata.nikkei.com/newsgraphics/destruction-map-chikumagawa/>)より「雨上がり、水位ピークにずれ」の図を使用。

避難勧告が出たら必ず避難する。  
 大丈夫だと過信せず、余裕を持って避難する。



長泉町ハザードマップ



地理院地図

## 大雨が降る中での避難の難しさ

洪水が起こった際の避難は、雨の中行われる。さらに氾濫は頻りに起こるものではないため浸水の想像ができない人が多いと考える。それに加え、大雨でタイミングを掴めず避難に遅れてしまう人もいると思う。

ただただ避難場所に向かうのは危険！  
 避難場所が川に近い、避難経路に浸水の恐れがある場合は別の場所への避難を考える。  
 図1より、雨が弱まった後に水位上昇の可能性があるため、「雨が弱まってから避難しよう」という考えは危険であるため改める。

Q. なぜ浸水が起こってしまうの？

A. **昔、川が流れていたから。** (資料を用意することはできなかったが、長年住む近所の人からの情報。)  
 今では大雨の際、水路を遮断して水を川に流すことでこの箇所の浸水を防いでいる。  
 適切な避難を行い、安全を確保することで命を守る。  
 北中学校は川に近いが建物が丈夫であり、浸水は西側のみのため安全を確保できる。早めの避難を推奨したい。

## まとめ

私の住む地域では、頻りに水害が起こってしまう豪雨に見舞われることは少ないと思う。経験が少ないからこそ、ちゃんとした知識を身につけておくことが大切である。津波よりも被害が小さいのは事実かもしれないが、川の氾濫による死亡事故も起きている。調べて考えたことは、やはり基本的な知識を持つことが大切であり、また、「雨が止んだら安心」→「雨が弱まった後に水位が上昇する」というように考えを改めることが必要であるということだ。避難のための環境、制度は整っていると思うので人々の考え方を改め、意識を高めていくことが身の安全の確保につながると考える。

①北小学校【広域避難場所・救護所】

標高 90m 坂の上にある  
 浸水の心配はなく安全である。

②北中学校【広域避難場所】

標高 70m 黄瀬川から近い  
 川に近く校舎の西側は浸水の恐れあり。

③長泉小学校【広域避難場所・救護所】

標高 58m 川から遠い  
 近くに役場がある。浸水の危険性は低い。

4.ウエルピア(健康運動公園)【自衛隊集結地域】

標高 61m  
 災害時、災害派遣部隊の現地における指揮所、宿泊・駐車・必要資材の集積などの活動拠点となる。